

総合福祉センターしんた21に 再生可能エネルギー設備を導入しました

再生可能エネルギーの普及促進を図るため、しんた21に蓄電付き太陽光発電システムや太陽熱利用給湯システム、地中熱と施設排熱を利用した融雪システムを導入しました。
今号では、今回導入した設備や、これらの設備によるしんた21の避難所機能を紹介いたします。

▼問い合わせ 商工労政グループ (☎852171)

○太陽光発電システム

平常時は、太陽光発電システムで発生した電力を、蓄電池に充電しているほか施設に供給しています。

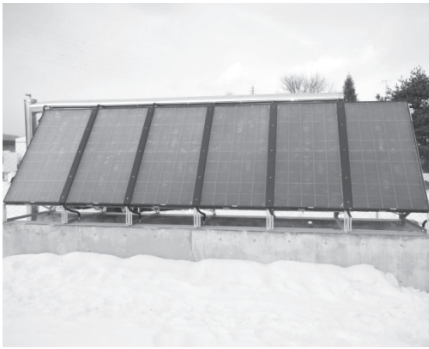
非常時は、蓄電池に蓄えた電力を利用し、避難所として必要な照明やコンセントなどに供給します。



○太陽熱利用給湯システム

平常時は、太陽熱集熱パネルを利用して加温した水を貯湯槽に蓄えた後、既存ボイラーで加熱し給湯や暖房などに使用しています。

貯湯槽に蓄えた水は、非常時には、避難者の生活用水として使用できます。



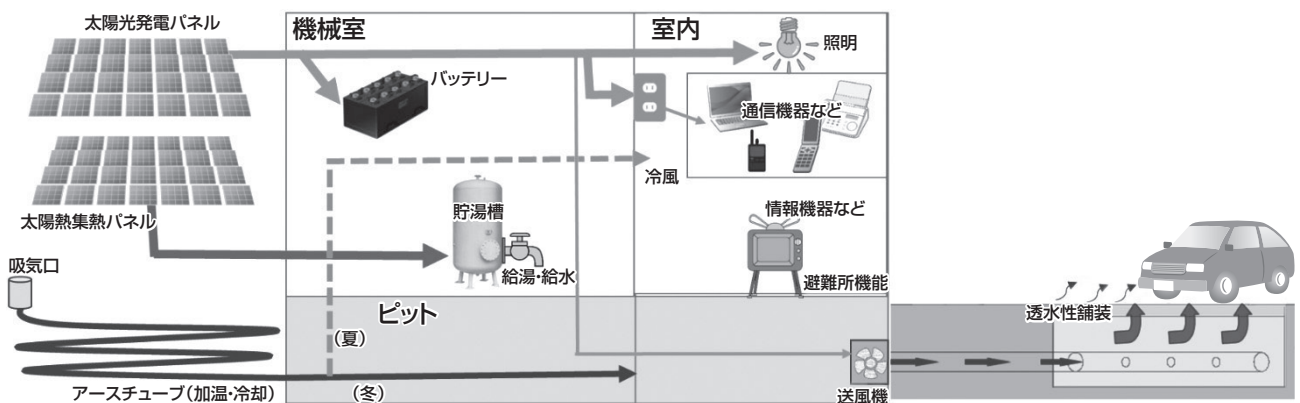
○融雪システム

冬季は、地中熱と施設排熱で温めた空気を地下から地表へ放出し融雪することで、介護車両などの駐車スペースや避難者の安全を確保できます。

夏季は、外気より温度の低い地中の空気を施設内に送ることで、冷房として使用できます。



～災害時におけるしんた21の避難所機能～



- ・日中は太陽光発電パネルで発電した電気を、悪天候時や夜間はバッテリーに蓄えられた電気を使うことで、避難場所の照明や電話、無線機などが使用できます。
- ・貯湯槽に蓄えた温水は、保温できる時間帯は温水として利用します。保温ができなくなった場合でも、飲料水として利用できます。
- ・夏季は、外気より温度の低い地中の空気を送風機で施設内に送ることで、避難者の冷房として利用します。